

日本傳天心古流



神傳



日本傳天心古流棒術奥義 神傳



禮式

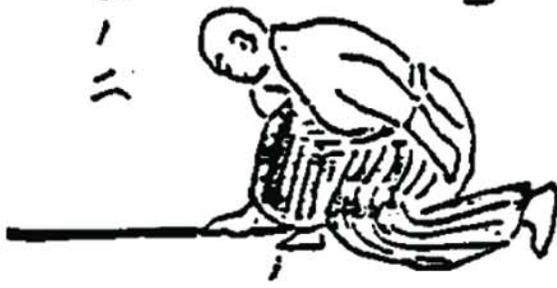
坐禮 右手ニテ棒ノ中央ヲ拵指ト四指ノ間ニ挟ミテ体ノ右側ニ立テ(二圖)  
次テ右之ヲ一歩前ニ踏ミ出シ棒ヲ前ニ倒スト全時ニ左膝ヲ地ニツケル(三圖)次  
テ棒ヲ引クト全時ニ右足ヲ退キ右膝ヲ地ニ着ケ正坐ス次テ兩手ヲ膝ノ前  
ニ突キ禮ヲ行フ(三圖)

(二圖) 坐禮ノ一



(二圖)

坐禮ノ二



坐禮ノ三

(三圖)



立禮 普通練習の場合ニ行フ禮デアル。(四圖)ノ如キ棒ノ中央ヲ拇指ト四指ノ間ニ挟ミテ体ノ右側ニ立テ上体ヲ前ニ屈メテ敬禮ヲ為ス禮ヲ行フ時対キト称トノ間隔即チ間合ハ普通六尺デアル

(四圖) 立禮



一立合ノ間合ハ相互身体ノ大小獲物ノ長短等種々事情ニ依ッテ間合ヲ斟酌セネバナラヌ

敵無キナル場合我ハ三尺棒ノ時ハ身構ヘニヨリ三尺ノ間合又ハ五尺ノ間合が必要デアル

敵太刀我ハ六尺棒ナル場合ハ構ヘ方ニヨリ六尺が適當スル場合ト九尺が適當スル場合ガアル故ニ間合ハ一歩踏ミ込ム敵ヲ突キ又ハ撃キツ事カ出来一歩退ケル敵ノ攻撃ヲ避ケ得ル丈ノ間隔ヲ取ル事ガ最モ必要ナ事デアル

次女勢身構

次女勢 正ニキ次女勢ハ技術ノ基礎デアール。次女勢ガ正ニケルハ身体ノ諸動作ガ敏捷自在トナリ、動作ニ無理ガナク、從ツテ技術ノ進歩モ速カデアール。身体ノ運動ハ千変萬化限リナキモ、デアールガ故ニ次女勢ハ一マ之ヲ採ルハ數限リモナイガ棒術ニ於テ其中最モ尋イ場合ヲ逢テラバ次ノ六構ヘデアール

(五回)



平一文字ノ構

(一) 平一文字之構

兩手ヲ下ケ、棒ノ三分一ノ中ヲ握ル。兩足ヲ左右ニ開キ、額ヲ正面ニ向ケ、自然ニ安定ニ直立シタル姿勢ヲ云フ此、身構ノ最モ変化シ易ク又此、姿勢ハ永ク保持スルコトガ出来ルモ、デアール (五回)

(六回)



横一文字ノ構

(二) 横一文字之構 (左右)

体ヲ斜メニ額ヲ正面ニ向ケル。兩手ヲ下ケテ棒ノ三分一ノ中ヲ握ル。尤是ヲ前ニ歩踏ミ出シテ膝ヲ引キテ足先ヲ正面ニ向ケル。右足ハ尤是ノ後ニ膝ヲ伸バシテ足先ヲ右向ニスル (六回)

(七回)



(三) 天地人之構 (左右)

右キヲ頭上ニ伸バシ、左キハ前ニ伸バシ、棒ノ三分一ノ中ヲ握ル。左足ヲ前ニ踏ミ出シ、膝ヲ少シク曲ケ、右足ハ正面ニ立ル。右足ハ左足ノ後ニ足先ヲ右ニ向ケ、膝ヲ伸バシ、又右キヲ反対ニ向ケ、握ルヲ逆天地人ト云フ (七回)

(四) 天地之構 (左右)

体ヲ斜ニ傾テ正面ニ向ケル。棒ヲ右側ニ引キツケ、右キハ肩ト略合シ、高サニ左キハ水月ノ高サニ於テ棒ヲ立テ、握ル。左足ヲ一步前ニ踏ミ出シ、膝ヲ少シク曲ケ、足先ハ正面ニ向ケル。右足ハ左足ノ後ニ膝ヲ伸シ、足先ヲ右ニ向ケル (八回)

(八回)

天地ノ構



(五) 下段之構 (左右)

棒ヲ体ノ右側ニ斜下ニ向ケル。頭ヲ正面ニ向ケ、右キハ伸バシテ右腿上部ノ外側ニ當テ、左キハ少シク曲ケテ臍部ノ辺ニ置キ、棒ヲ握ル。左足ヲ一步前ニ出シ、膝ヲ少シク曲ケ、足先ヲ正面ニ向ケ、右足ハ左足ノ後ニ膝ヲ伸シテ、足先ヲ右ニ向ケ、棒ノ前ノ端ハ水月ノ高サニ棒尻ハ地ニ附テ程度ニ下ケル (九回)

(九回)

下段ノ構

(六) 中段之構 (左右)

左キヲ伸バシテ棒ノ三分一ノ中ノ前部ヲ握リ、水月ノ高サニ保テ、右キハ棒ノ三分一ノ中ノ後部ヲ握リ、臍部ノ高サニ置キテ、横腹部ニ密接スル。棒先ハ敵ノ目ノ高サニ止メ、頭ヲ正面ニ向ケル。左足ヲ前ニ出シ、膝ヲ少シク曲ケ、足先ハ正面ニ向ケル。右足ハ左足ノ後ニ膝ヲ伸バシ、足先ヲ右ニ向キ、輕ク踏ム

(十回)

中段ノ構



# 基本形 八本

此、基本八法ヲ練習スルニ目、前ニ敵が存在スルモノト假想シ、気合ヲ掛ケテ練習スル

天心古流ニ使用スル棒ハ、椴木ヲ直径八分ニ丸メテ、其ノ長サハ六尺ト四尺ニテ、三尺五寸ノモノヲ定ヤトス

## 一、受身 (左右交代ニヨリ八マデニ回行フ)

- 一、棒ヲ右手ニ握リテ自然体ニ立ツ
- 二、上体ヲ前ニ屈メテ敵體ヲ行フ
- 三、棒ヲ平一文字ニ身構ヘル

一、懸声ト共ニ(十二回)、如ク左足ヲ一歩前ニ踏ミ出スト、其時ニ右手ヲ前ニ高ク伸ビ、又右手ハ肘関節ヲ屈曲セテ棒ヲ前構、前側ニ添ハス

二、懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退ケト、其時ニ両手ヲ下ケテ平一文字ニ構ヘヨトス、續キテ前ノ反対ニ受身ヲ行フ

三、懸声ト共ニ(十三回)、如ク右足ヲ前ニ踏ミ出スト、其時ニ右手ハ高ク前ニ伸ビ、又左手ハ肘関節ヲ屈曲セテ棒ヲ前構、前側ニ添ハス

四、懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退ケト、其時ニ両手ヲ下ケテ平一文字ニ構ヘル



(十四回)



面ヲ打テタル可

二 面 打 (左右交代ニヨリハマデニ同行フ)

- (一) 懸声ト共ニ左足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ左端ヲ以テ敵ノ面ヲ打ツ(十四回)
- (二) 懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退キテ平一文字ノ構ヲナス
- (三) 懸声ト共ニ(十六回) 如ク右足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ面ヲ打ツ
- (四) 懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル

三 小 手 打 (左右交代ニヨリハマデニ同行フ)

- (一) 懸声ト共ニ左足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ左端ヲ以テ敵ノ右小キヲ打テ拵フ(十七回)
- (二) 懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル
- (三) 懸声ト共ニ右足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ左小キヲ打テ拵フ(十八回)
- (四) 懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル

(十七回)



右小キヲ打テタル可

四 胴 打 (左右交代ニヨリハマデニ同行フ)

- (一) 懸声ト共ニ左足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ左端ヲ以テ敵ノ右胸ヲ打ツ(十九回)
- (二) 懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル
- (三) 懸声ト共ニ右足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ左胸ヲ打ツ(二十回)
- (四) 懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル

(廿回)



左胸ヲ打テタル可

- (一) 懸声ト共ニ左足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ左端ヲ以テ敵ノ右胸ヲ打ツ(十九回)
- (二) 懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル
- (三) 懸声ト共ニ右足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ左胸ヲ打ツ(二十回)
- (四) 懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クト全時ニ両手ヲ下テテ棒ヲ平一文字ニ構ヘル

(廿二圖)



右脛ヲ打テケル所

(廿三圖)



右横面ヲ打テケル所

五、脛打（左右交代ニヨリハニテニ同行フ）

- 一、懸声ト共ニ足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ右脛ヲ打拂フ（二十圖）
- 二、懸声ト共ニ足ヲ元ノ位置ニ還テト全時ニ棒ヲ平ニ文字ニ構ヘル
- 三、懸声ト共ニ足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ右脛ヲ打拂フ（二十一圖）
- 四、懸声ト共ニ足ヲ元ノ位置ニ還テト全時ニ棒ヲ平ニ文字ニ構ヘル

六、横面打（左右交代ニヨリハニテニ同行フ）

- 一、懸声ト共ニ足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ右キヲ放シ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ右横面ヲ打ツ（二十二圖）此際右キヲ添ヘル
- 二、懸声ト共ニ足ヲ元ノ位置ニ還テト全時ニ右キヲ放シ右キヲ以テ棒ヲ返シテ平ニ文字ニ構ヘル此際右キヲ添ヘテ握ル
- 三、懸声ト共ニ足ヲ一歩前ニ踏出スト全時ニ右キヲ放シ棒ノ右端ヲ以テ敵ノ右横面ヲ打ツ此際右キヲ添ヘル（二十三圖）
- 四、懸声ト共ニ足ヲ元ノ位置ニ還テト全時ニ右キヲ放シ右キヲ以テ棒ヲ返シテ平ニ文字ニ構ヘル

(廿五回)

九足ヲ出ニ水  
月ヲ突ニテ行



(廿八回)

等九ヲ出ニテ行



(七) 六入 (左右交代ニヨリハニテニ同行フ)

- 一ノ懸声ト共ニ左足ヲ一步前ニ踏出ストハニ時ニ棒ノ左端ヲ以テ敵ノ水月ヲ突ク(廿五回)
- 二ノ懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退クトハニ時ニ棒ヲ平一文字ニ構ヘル
- 三ノ懸声ト共ニ右足ヲ一步前ニ踏出ストハニ時ニ棒ノ右端ヲ水月ヲ突ク(廿六回)
- 四ノ懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クトハニ時ニ棒ヲ平一文字ニ構ヘル

(八) 跳上 (左右交代ニヨリハニテニ同行フ)

- 一ノ懸声ト共ニ左足ヲ一步前ニ踏出ストハニ時ニ棒ノ左端ヲ敵ノ股間ニ差シ入レ畢九ヲ跳上ルル(廿七回)
  - 二ノ懸声ト共ニ左足ヲ元ノ位置ニ退クトハニ時ニ棒ヲ引イテ平一文字ニ構ヘル
  - 三ノ懸声ト共ニ右足ヲ一步前ニ踏出ストハニ時ニ棒ノ右端ヲ敵ノ股間ニ差シ入レ畢九ヲ跳上ルル(廿八回)
  - 四ノ懸声ト共ニ右足ヲ元ノ位置ニ退クトハニ時ニ棒ヲ引ヒテ平一文字ニ構ヘル
- 八法終リテ敵禮ヲテス